

別紙 3

令和 8 年度滋賀県立美術

館 第一期企画展

イラスト、印刷物、

展示プラン作成業務

仕様詳細資料

1. イラスト作成要領（別紙 2 制作物一覧 No.1 について）

（1）概要

展覧会の内容を図示し、広報印刷物や会場内の広報物に使用するイラストを作成する。

（2）バリエーション：12 種類

No.	使用箇所	イラスト内容（想定）
1	展覧会メインビジュアルや入口看板	見方を変えてみるという本展趣旨を端的に感じさせる人物の仕草を描いたもの。性別の描き分けがある場合は、男女同数とすること。
2	第1章 色を見つける	カラーチャートを見つつ作品の色を確認している人物
3	第2章 寝そべって見る	畳の上にうつ伏せに寝そべって屏風を見上げる人物
4	第3章 双眼鏡で見る	双眼鏡を覗いて作品を観察する人物
5	第4章 屏風の中に入り込む	開いた横長の屏風に背後から挟まれて、屏風の中の世界に吸い込まれそうになっている人物
6	第5章 中身をぜんぶバラして見る	テーブルの上で箱を開けると中から小さな絵画や額縁やパレットが多数飛び出す様子を見ている人物
7	第6章 座ってじっくり見る	椅子に座ってルーペで作品を細かく観察する人物
8	第7章 ひかりをかえて見る	スポットライトのスイッチを押している人物
9	第8章 まっくらな中で見る	懐中電灯を持って暗闇の中で作品を照らす人物
10	第9章 作品などにさわって見る	手で作品や素材に触れて鑑賞する人物
11	第10章 作品のなかになる	作品と同じポーズをとって写真撮影する人物

12	ドロップインワークショップ	ワークショップに沿った内容の人物
----	---------------	------------------

(3) 備考・制作上の注意事項

① イラストの目的と方向性

- ・ 展覧会の内容を視覚的にわかりやすく図示し、解説を補完する。
- ・ 全体の印象を親しみやすく、やわらかいトーンにする。
- ・ 多様な来館者（子どもから大人まで）に訴求できるデザインとする。

② キャラクター・人物の描き方

- ・ 便宜的に「人物」と記載しているが、性別のないキャラクター、動物などでも可（提案による）。
- ・ ただし、展覧会の趣旨や雰囲気損ねないよう、過度に印象の強いキャラクター造形は避けること。
- ・ わかりやすさや演出のため、1つのイラストに複数の登場人物を描いても構わない。
- ・ 描くキャラクターが人間の場合、必ず子どもを登場させること。

③ ジェンダーバランスへの配慮

- ・ 性別を描き分ける理由がある場合、男女の登場回数は12種類全体を通じて同数にすること
- ・ 多様性に配慮し、ステレオタイプな表現を避けること。

④ 使用権限とクレジット

- ・ 美術館は納品されたイラストを、本展覧会に関する印刷物・ウェブサイト・SNS・館内掲示などに使用できる。
- ・ ただし、本展に関わる用途に限定し、それ以外の目的には使用しない。
- ・ イラストのクレジットは、展覧会全体のクレジット表記に含めるが、各イラストに個別のクレジットは入れない。

(4) 納品形式

- ・ 印刷・ウェブ両用に対応できる解像度とファイル形式で納品すること。
- ・ 色校正や修正対応が可能な状態で納品すること。

2. 広報制作物作成要領（別紙2 制作物一覧 No.2-12 について）

（1） 概要：展覧会の効果的な広報を目的として、制作物一覧 No.2-12 の印刷物を作成すること。作成にあたっては下記の内容を参照すること。

（2） 広報コンセプト

普段はできない体験が美術館でできる

- ・ 本展では、展示室で寝そべる、暗闇の中で作品を鑑賞する等、一般的な美術館では体験しにくい鑑賞を提供する。
- ・ 新しい美術館の楽しみ方への期待感を喚起すること。

子どものワクワクと大人の好奇心の共存

- ・ 本展は子ども向けの配慮を行いつつ、大人の知的好奇心も刺激する内容を志向する。
- ・ 年齢に応じた多様な楽しみ方ができる点を打ち出すこと。

（3） メインビジュアルについて

- ・ チラシ表面やポスター等に用いるメインビジュアルは、ケネス・ノーランド《カドミウムレイディアンス》とし、必要に応じて、イラストを組み合わせる構成すること。



ケネス・ノーランド《カドミウム・レイディアンス》1963 滋賀県立美術館蔵

- ・ 配色やレイアウトは作品の色彩的特徴を活かし、視覚的インパクトを重視すること。
- ・ イラストを組み合わせる場合は、作品の印象を損なわないバランスで配置すること。

と。

- ・作品のトリミング、作品の上に文字載せはしないこと。

(4) 展覧会名のタイトルデザインについて

- ・チラシ等に用いるタイトルは、楽しい印象を演出すること。
- ・既存フォントの流用ではなく、意匠的特徴を取り入れることを基本とする。
- ・既存フォントの使用がより効果的と判断される場合は、美術館と協議のうえ決定すること。
- ・子どもにも読みやすく、かつ大人にも洗練された印象を与えるデザインとすること。
- ・展覧会の「いろんな見方にトライする」というコンセプトを視覚的に表現することが望ましい。
- ・カラーバリエーション(正版・白抜き等)を用意し、各媒体で使えるようにすること。

(5) ティザービジュアルについて

- ・開催に向けた期待感を高める早期広報として活用する。
- ・タイトル・会期等の最小限の情報で差し支えないが、作品画像やイラスト等を用い、事業者の提案により効果的な演出を行うこと。
- ・「何が起こるのか」を予感させる構成とし、本格的な情報公開への期待を高めること。
- ・メインビジュアルとの連続性を持たせ、ブランディングの一貫性を保つこと。

(6) 全体的な留意事項

- ・すべての印刷物において、ユニバーサルデザインに配慮し、可読性を確保すること。
- ・色覚多様性に配慮した配色とし、色のみで情報を区別しないこと。
- ・各制作物のサイズ・仕様・納品形式については、別途仕様書を参照すること。
- ・校正は初校・再校の2回を想定し、スケジュールに余裕を持った制作を行うこと。

3. 展示プラン作成要領（別紙2 制作物一覧 No.21）

（1）概要

- ・事業者は、別紙1 開催概要、別紙4 作品リスト、別紙5 参考図面を参照し、各章ごとに展示プラン：想定される什器の仕様、およびその設置方法を提案すること。
- ・什器・備品は美術館想定を基本とする。ただし、同等以上の性能・品質を満たす代替仕様を含むプランの提案を可とする（根拠・影響の明記必須）。
- ・別添5 参考図面は美術館側が現状として想定する一案であり、事業者がレイアウトを変えてもよい。
- ・各章の技術的、物理的な実現性についても美術館側と十分に議論すること。そのうえで、何かしらの理由において実現が不可能という結論に至った際は、代案の検討を美術館と一緒にすること。
- ・展示什器等の作成、備品の準備にかかる費用は4,000,000 円を上限として想定すること。
- ・各章における企画意図および想定される什器・備品については、下記（2）のとおり示す。

（2）各章の内容

第一章：色を見つける

① 企画内容

- ・日本やフランスの伝統色名を示すカラーチャート（DIC 規格を想定）を展示し、作品内の色彩を探索できるようにする。
- ・来館者一人につき 1 枚、色見本チップをランダムに配布する。

② 想定される什器・備品

A 色見本チップ提供什器

- ・数量：1 点
- ・サイズ：提案による
- ・素材：木製またはアクリル製（補充が容易な構造）
- ・備考：クジ箱状の提供方式など提案による。チップは 13 × 60 mm 程度を想定。角の面取りと厚み・重量のバランスに配慮。

B 色見本チップ配布趣旨サイン

- ・数量：1 点
- ・サイズ：A3 程度（提案による）

- ・素材：アクリル板またはパネル印刷
- ・備考：A の近傍に設置。

C カラーチャート

- ・サイズ：B 2 判相当、3 枚
- ・仕様：スチレンボードに紙を貼付したパネル上に、D I C 色見本約 120 チップを直接貼付する。カラーチップ上には番号シールを貼り付け、パネルの余白部分にその番号に対応した色名表記（それぞれ 20 字程度の解説付き）を記載する。

第二章：寝そべって見る

① 企画内容

- ・畳や座布団等で視線の高さを変えて鑑賞する。

② 想定される什器・備品：

D 寝転がり鑑賞用敷物

- ・数量：3 箇所
- ・サイズ：作品リストと図面に基づき提案
- ・素材：畳（または ごさ、カーペット等）
- ・備考：縁のほつれ防止、つまずき配慮。靴の着脱動線とベビーカー待機位置を区画し、作品と鑑賞者の安全を確保。寝そべって鑑賞する趣旨から畳を優先するが、つまずき防止策を十分に講じること。畳の段差を安全に運用できない場合は、段差のない素材（ごさ、カーペット等）を採用すること。

E 毛氈

- ・数量：1 点
- ・サイズ：参考図面および作品リスト No.14、No.15 に適合する寸法を提案
- ・素材：毛氈（伝統的な赤または空間や作品に調和する色）

③ 備考

- ・床固定は養生テープ等で行い、アンカー打ちなど床面を傷つける施工は不可。
- ・「靴を脱いでご鑑賞ください」等のサインを各敷物エリアに掲示（文面は美術館が用意）。

第三章：双眼鏡で見る

① 企画内容：

- ・ 指定位置から双眼鏡で鑑賞し、作品の遠景とクローズアップを体験する（2箇所）。

② 想定される什器・備品：

F. 双眼鏡

- ・ 数量：3点
- ・ 仕様：倍率 6–8 倍、最短合焦 2 m 程度、実視界 6° 以上、重量 500 g 以下、眼幅調整可
- ・ 備考：子どもから大人まで扱いやすい軽量機種。

G 双眼鏡置き台

- ・ 数量：2 台
- ・ サイズ：採用双眼鏡が収まる寸法で提案
- ・ 素材：木製
- ・ 備考：盗難防止ワイヤー組込み。高さ 800–1000 mm 目安。使用方法サインを側面もしくは上面に掲示（A5 縦想定、文面は文面は美術館が用意）

H. 双眼鏡観察サークル

- ・ 数量：2 箇所
- ・ サイズ：直径 1m程度を目安にサイズを提案すること
- ・ 素材：ビニールテープまたはカッティングシートを推奨
- ・ 備考：床面を傷つけない素材・施工方法を選定すること。サークル内に「ここから双眼鏡で鑑賞してください」などの案内表示を設置すること（文字内容は美術館が用意）

第四章：屏風の中に入り込む

① 企画内容：

- ・ 鑑賞者は屏風特有のジグザグ構造に沿って鑑賞し、屏風が生む特異な空間性を体験する。

② 想定される什器・備品：なし（屏風台は当館の既存物を使用）

③ 備考：事業者側で什器などの設計・配置の予定は特にないが、プラン作成段階で改善案があれば提案すること。

第五章：なかみをぜんぶバラして見る

① 企画内容：

- ・ 普段は一部しか見ることができない作品のサンプルを用いて、普段は見ることのできない裏面や内部構造を鑑賞する。鑑賞者は閲覧テーブルで資料を

自由に閲覧できる

② 想定される什器・備品：

I. 閲覧テーブル

- ・数量：1 点
- ・サイズ：H720×W1200×D600mm 程度（提案による）
- ・素材：木製を推奨
- ・備考：椅子使用前提で足入れ可。紙の資料を配置するため、天板は塗料の付着や汚れが起きにくい材質（木製クリア塗装またはメラミン化粧板など）を推奨

J. 複製資料

- ・該当作品：マルセル・デュシャン《ヴァリーズ》 リスト No.22
- ・趣旨：複数の資料がセット状になっている本作品の中で、複製する必要のある作品資料は、B3 判程度の大きさに2つ折りになった資料群である。それぞれのページにカラー印刷された図版が貼付されている。作品群の一部を額装して展示ケース内に展示する予定であるが、裏側が見えないため、複製を用いて机の上で自由に閲覧できるようにする。
- ・複製制作点数：1 セット
- ・サイズ：原寸を基本。
- ・作品は平面。撮影したものを印刷によって制作すること。
- ・複製カット数：最大 70 カット。
- ・複製物の作成方法は、事業者は作品について実見などの上詳細を把握し、撮影方法などについては安全かつ高精度に作れる方法を提案すること。
- ・資料の閲覧方法や取り扱いに関する案内表示を設置すること（文字内容は美術館が用意）。
- ・椅子は美術館の既存物を使用予定だが、テーブルの高さと調和するよう配慮すること。

第六章：座ってじっくり見る

① 企画内容

- ・鑑賞者は椅子に腰掛け、目の前の作品をじっくり観察することができる。

② 想定される什器・備品：

K 展示台（平面）

- ・数量：1 点
- ・サイズ：作品リスト No.24、No.25 に適合する展示面サイズで、座位鑑賞

の高さを提案

- ・ 素材：木製推奨
- ・ 備考：座位で足入れ可。上から覗き込める構造。展示台の上には他所から借用した「実体顕微鏡」(サイズは W200× D250× H400mm 程度)を 2 台設置し、そのステージ部分上に作品資料を乗せた状態でアクリルでカバーする。(高さは視認性を阻害しない範囲)。盗難防止機構を組み込む。

L 展示台 (斜面)

- ・ 数量：1 点
- ・ サイズ：作品リスト No.26-No.29 の額装サイズに適合。上面傾斜は 10-15 度 (最終角度は館側指示)。
- ・ 素材：木製推奨
- ・ 備考：額装サイズは要指定。スタンドルーペ置き場と盗難防止機構を組み込む。

M スタンドルーペ (非照明)

- ・ 数量：2 台
- ・ 仕様：倍率 5~8 倍、レンズ径 750-1100mm、クランプ固定式もしくはスタンド式のアーム型もしくはグースネック型ルーペ。ネック長 500mm~。
- ・ 備考：照明付きのものでも構わないが使用しないので電源コードを切断する。スタンド式の場合は動かないよう足を机に固定すること。

N 14 インチタブレットとその設置台

- ・ 数量：各 1
- ・ 仕様：タブレット：フル HD で 2 分程度の動画をエンドレス再生できるもの。レンタル可。OS は問わない。

設置台：タブレット(横向き)を垂直でセットしたまま画面を鑑賞できるもの。高さ 90cm。木製。

- ・ 備考：タブレットの盗難防止機構を組み込むこと。

③ 備考

- ・ 椅子は美術館が用意する

第七章：光を変えて見る

① 企画内容：

- ・ 鑑賞者は作品の前にあるスイッチかリモコンを操作することで作品への照

明を切替え、見え方の変化を体験する。

② 想定される什器・備品：

O スポットライト（手元スイッチ操作）

・数量：8 作品分（1 作品につき 1 灯）

・器具仕様

光源：LED、色温度：3000K(5 個)、4000K(3 個)。演色性：Ra95 以上

（R9≥50 を推奨）、ビーム角：中角（25° ～35° 程度）、設置方式：ライティングレールに対応、外装色：黒または白

・操作方法

スイッチ操作：鑑賞者が足元でインラインスイッチを用い、踏んでいる間だけ ON にする操作とすること。

・備考：鑑賞者の足元のスイッチは、踏んでもずれないように床を傷つけない手段で固定する。操作方法を図示したサインを付近に設置すること(文字内容は美術館が用意)。設営時に各器具の照度を作品面で最大 100lx 以下に調整し、実測・マーキングを行う。配線・露出は美観と安全性を両立させ、関連法規に準拠すること。

第八章：まっくらな中で見る

① 企画内容：

・空間の一部を暗室化し、来館者に懐中電灯を貸与して鑑賞する。

② 想定される什器・備品

P バリケード（導線・離隔確保）

・数量：一式

・サイズ：参考図面に基づき提案

・素材：木製推奨（転倒しない構造）

・備考：暗所が苦手な来館者向けに境界に遮光カーテン等を設置し、通り抜け導線を確保。

Q 懐中電灯およびその受取・返却台

・数量：1 台

・サイズ／仕様：提案による

・素材：木製推奨

・備考：盗難防止および管理しやすい構造。注意事項サインを設置（文面は美術館が用意）。

R 暗幕

- ・数量： 2 枚
- ・サイズ；(各)幅 8m、高さ 4m
- ・素材：遮光効果に優れたもの。
- ・備考：天井から吊り下げる仕様だが、天井面と暗幕の隙間から光が漏れないように設置すること。

S 遮光プレート

- ・数量： 天井および床面：各 2 枚、展示パネル間の隙間：2 枚
- ・サイズ：天井および床面：(各)長さ 7800mm×幅 100mm、
パネル間の隙間：(各)長さ 385mm×幅 100mm
- ・仕様：反対側からの照明が漏れないよう、パネル(幅 390cm)を 2 枚並べた壁面の、天井と床面に接する部分およびパネル間の隙間に貼付固定するプレート。
- ・素材：木製推奨。
- ・備考：表面はパネルに貼付しても違和感がないよう水性塗料でグレーに塗装。遮光が完全にできるならプレートは 1 枚ではなく分割式でも構わない。

第九章：作品と素材に触れる

① 企画内容：

- ・鑑賞者は触察可能な作品や関連素材をさわることができる。

② 想定される什器・備品：

T 触察前提の展示台（武田浪作品用）

- ・数量：1 点
- ・サイズ：出品作品 No.46 が載る面積を算出のうえ提案、幅 800mm、奥行 600mm、高さは床面から天板上面まで 750-850 mm（立位での触察に適した高さ）想定。
- ・素材：木製推奨
- ・備考：立位鑑賞での触察を前提。作品を持ち上げないようテグス等で上面固定できる仕様（固定作業は本業務に含まない）。

U 触察前提の展示台（神山清子作品用）

- ・サイズ：出品作品 No.47 から 52 を展示するため幅 1800×奥行 600mm 程度の面積を確保。高さは床面から天板上面まで 750-850 mm（立位での触察に適した高さ）想定。

V さわって鑑賞することを前提とした展示台（卷子サンプル用）

- ・サイズ：幅 3600×奥行 600mm 程度の面積を確保。高さは床面から天板上面まで 750–850 mm（立位での触察に適した高さ）想定。

W 鑑賞者が靴を脱いで上に乗り、屏風をさわって鑑賞することを前提とした敷物（屏風サンプル用）

- ・サイズ：作品リスト・図面に基づき提案
- ・仕様：縁のほつれ防止、つまずき配慮。靴の着脱動線とベビーカー待機位置を区画し、作品と鑑賞者の安全を確保。
- ・備考：床固定は養生テープ等で行い、アンカー打ちなど床面を傷つける施工は不可。・「靴を脱いでご鑑賞ください」等のサインを各敷物エリアに掲示（文面は美術館が用意）。

備考：

- ・いずれの什器も立っている状態の鑑賞者がさわって鑑賞することを前提に仕様を検討すること。
- ・作品を持ち上げることのないように作品をテグスなどで固定するため、釘打ちができる仕様にする。
- ・作品を固定する作業は本業務に含まない。

第十章：作品のなかまになる

① 企画内容

- ・鑑賞者は作品と同じポーズで展示のなかに入り込み、写真撮影することができる。

② 想定される什器・備品：

X 作品を自撮りできる台

- ・点数：1 点
- ・サイズ：提案による。安定性のある構造を用いること。
- ・備考：鑑賞者が撮影用にスマートフォンを置けるよう工夫すること。ヴォワイヤンの椅子は美術館が用意する。レイアウトを検討する際は、作品の安全を考慮し、鑑賞者が座る椅子の距離に配慮すること。
- ・撮影方法や注意事項に関する案内表示を設置すること（文字内容は美術館が用意する）。

（3） 全体的な留意事項

- ・（２） の想定什器は別紙 6 展示プラン作成要領内想定什器一覧にまとめている。
- ・ 什器・展示台は転倒防止措置を講じること(壁固定、ベース拡張、重心低下等)。
- ・ 角部・突起部は面取りまたは保護材で養生すること。
- ・ 使用素材は難燃材料を原則とし、消防法・建築基準法に適合すること。
- ・ 電気配線は養生し、つまずき防止・接触防止を徹底すること。
- ・ 床面の滑り止め・段差解消を行い、車椅子利用者・高齢者の動線に配慮すること。